



なみ き

埼玉県議会議員

無所属 県民会議 SAITAMA

並木 まさとし



発行者 連絡先

埼玉県議会議員 並木正年 〒365-0038 鴻巣市本町3-2-19-B TEL 541-7777 / FAX 543-8000

日頃の活動は ホームページで!

並木まさとし

検索

namikimasatoshi@soleil.ocn.ne.jp



私の所属する14名の会派「無所属県民会議」は、頻りにビデオ会議を通じて各所属議員の地元の皆様から頂いた意見を議論し、集約した要望を「県民の声」として知事に届けています。これまで、保育園や幼稚園の休止指針、休業事業者に対する補償の創設、PCR検査実施数の拡大、遠隔診療の規制緩和、陽性患者の病床数の確保など、いずれの要望も大きく前進しているところです。

また、県民に分かり易い正しい情報発信と周知、市町村別陽性者数を示す図表の改善など、細かい部分においても14名の英知を活かして活動しております。

未だ終息が見えない状況ですが、全ての市民・県民、誰一人取り残すことなく取り組んで参ります。

特定定額給付金（国民1人一律10万円）の支給が始まります。この施策の目的には「医療現場をはじめとして全国各地のあらゆる現場で取り組んでおられる方々への敬意と感謝の気持ちを持ち、人々が連携して、一致団結し、見えざる敵との闘いという国難を克服しなければならない」と示されています。

新型コロナウイルスの影響によって地元の落ち込んだ消費を再起させるためには、この定額給付金を市内事業者のために使っていただくことが何より重要です。

そこで、今後創設される総額1兆円の地方創生臨時交付金を自治体の判断で定額給付金に1人1万円を上乗せして、11万円分の「地域応援商品券」として地元で利用していただくことも良いと考えます。

もちろん、家賃などの支払いのために現金が必要な方もいるでしょうから、現金と商品券の選択制にすることが大切です。仮に、市民の半数の方が「地域応援商品券」を選択した場合には、約60億円の経済効果を生み出すため、市内事業者にとって大きな効果になると思います。

### 新型コロナウイルスの影響で休業や失業したら？

#### 新型コロナウイルスに関連して



※ 貸付期間は原則3月以内

緊急小口資金：償還期限は2年以内

総合支援資金：償還期限は10年以内

※ いずれも据置期間は1年以内、無利子・保証人不要・無担保  
状況次第で返済免除になる場合がある



# 地点名標識〔交差点の名前〕を設置しました



三谷橋



屈巢(西)



屈巢(東)

要望していた交差点3箇所の名称板が設置されました。

これまで「東小学校入口」・「人形」・「安養寺(中)」などを設置してきましたが、交差点に名前を付けたことで現在地の把握や道案内がし易くなったとの声をいただいています。

交差点名の設置基準は公共施設、道路構造物、観光・歴史名所、住居表示(鴻巣市「鴻巣」や鴻巣市「屈巢」)などが原則となっているため、地域に親しみのある町内会名や自治会名「上三谷」や「中郷」等の名称は残念ながら使用できないこととなっています。

例えば、中山道の加美交差点は加美町に位置していますが「加美」と標記され、17号の神明交差点は神明町に位置しますが「神明」と標記されるのは前述のとおりです。

今回、設置した「三谷橋」交差点は「フラワー通り入口」も検討されましたが、名称が長いこと、北側が「市ノ縄」であること、また17号バイパス交差点に箕田(北)が設置されていることから「三谷橋」となった経緯があります。

また、屈巢(西)と屈巢(東)については「屈巢」が既に設置されていることから方位での標記になりました。

※名称が重複する場合は(東)・(西)・(南)・(北)や(上)・(中)・(下)を使用します。

名称板が設置されることで目的地を明確に伝えることができ、また、現在地の把握にもつながりますので、今後も名前のない名称板の設置を進めて参ります。

## 新型コロナウイルス感染症防止のため免許センターの利用休止を働きかけました



検査を待つ大行列

新型コロナウイルスの感染拡大を防止すべく、2月議会中から混雑している免許センターの利用休止を県警本部に打診してきました。緊急事態宣言が発出された初の日曜日(4月12日)に免許センターを再調査しました。

この日は雨天により電車を避けマイカーで来られている方が普段より多いためか、駐車場には既に多くの車が埋まっていました。感染症対策として、施設入り口には警察官が待機し、サーモグラフィーと消毒液の声かけを実施していました。

また、対面しなければならない証紙購入などのカウンターには飛沫防止の透明カーテン等で工夫されていましたが、検査の順番待ちには多くの方が並んでいました。

昨年同時期との利用者数を比較すると、学科試験の利用者数は前年比3月で+1,909人、更新の利用者数は同+144人と自粛期間にも関わらず大きな変化がないことがわかりました。

このような免許センターの現状を知事に伝えたことで、次の日(13日)には担当大臣への緊急要望、15日の休止発表から16日には更新者・高齢者講習・認知機能検査の利用休止に至りました。

免許センターは県内各地から1か月あたり約4万人が訪れる施設でもあり、感染経路の不明からの社会的影響が大きいため、休止が最善の策だったと思います。



昭和45年(1970)鴻巣市本町生まれ/鴻巣幼稚園/鴻巣東小学校/鴻巣中学校/埼玉栄高校(サッカー部)/亜細亜大学経済学部国際関係学科卒/セントラルワシントン大学AUAP課程修了/鴻巣幼稚園保護者会副会長/鴻巣東小PTA副会長/鴻巣市商工会青年部第31代部長/第8回このす花火大会代表/鴻巣市消防団第2分団員(23年目)/鴻巣市議会議員2期/H27年~埼玉県議会議員/産業労働企業委員/自然再生循環型社会対策特別委員/彩の国さいたまづくり広域連合議会議員/家族:妻・長女・長男・愛犬レオプロフィール